

2025年8月8日

宇都宮ジャパンカップサイクルロードレース実行委員会  
計3枚

## 【出場チーム発表】 『2025宇都宮ジャパンカップサイクルロードレース』

世界トップレベルの選手による本気の走りを間近で観戦でき、国内外から延べ13万人が来場する“アジア最高位のワンデイロードレース”「2025宇都宮ジャパンカップサイクルロードレース」(開催：10月17日(金)～19日(日))に、出場予定となる全19チーム中、18チームを発表します。

UCI Continental Teamからは海外から1チーム、国内から7チーム、UCI ProTeamからは4チーム、そしてUCI最上位カテゴリーであるUCI WorldTeamからは6チームの参戦が確定しました。残るは1チームはナショナルチームです。メンバーの発表をお楽しみに！※チーム紹介全文は公式Webサイトに掲載しています。

### <出場決定チーム (18チーム)>

#### UCI WorldTeam UCIワールドチーム (6チーム)

- EF EDUCATION - EASYPOST (EFE/USA) | EFエデュケーション・イージーポスト
- BAHRAIN VICTORIOUS (TBV/BRN) | バーレーン・ヴィクトリアス
- COFIDIS (COF/FRA) | コフィディス
- INTERMARCHÉ - WANTY (IWA/BEL) | アンテルマルシェ・ワンティ
- LIDL - TREK (LTK/USA) | リドル・トレック
- TEAM JAYCO ALULA (JAY/AUS) | チーム・ジェイコ・アルウラー

#### UCI ProTeam UCIプロチーム (4チーム)

- ISRAEL - PREMIER TECH (IPT/ISR) | イスラエル・プレミアテック
- SOLUTION TECH VINI FANTINI (TFT/ITA) | ソリューションテック・ヴィーニファンティーニ
- TEAM NOVO NORDISK (TNN/USA) | チーム ノボ ノルディスク
- TUDOR PRO CYCLING TEAM (TUD/SUI) | TUDORプロサイクリングチーム

#### UCI Continental Team UCIコンチネンタルチーム (海外1チーム/国内7チーム)

- POGI TEAM GUSTOLJUBLANA (PGL/SLO) | ポギチーム・グスト・リュブリャナ
- AISAN RACING TEAM (AIS/JPN) | 愛三工業レーシングチーム
- KINAN RACING TEAM (KIN/JPN) | キナンレーシングチーム
- SHIMANO RACING (SMN/JPN) | シマノレーシング
- TEAM UKYO (TUK/JPN) | TEAM UKYO
- UTSUNOMIYA BLITZEN (BLZ/JPN) | 宇都宮ブリッツェン
- VC FUKUOKA (VCF/JPN) | VC FUKUOKA
- VICTOIRE HIROSHIMA (VCH/JPN) | ヴィクトワール広島

#### 【報道関係者お問い合わせ先】

2025宇都宮ジャパンカップサイクルロードレース広報事務局(株式会社ジュンプロモーション内) 担当：小原、川上  
TEL: 03-3402-5136 / 携帯：090-9854-9542 (小原) MAIL: info@junpro.co.jp

## &lt;UCI WorldTeam UCIワールドチーム (6チーム) &gt;



## EF EDUCATION - EASYPOST (EFE/USA) | EFiエデュケーション・イーザーポスト

ロードレースではガーミン社がタイトルスポンサーを務めていた時代から数えて6度の優勝を誇る、名実ともにこの大会の代名詞とも言えるチーム。前回は、ワールドクラスの実力を持つニールソン・パウルスが2回目の大会制覇。改めて、宇都宮ジャパンカップのバリューを世界に大きく発信する機会になった。唯一の日本人メンバー、留目夕陽はシーズン序盤の好調さが戻れば十二分な戦力に。ベストメンバーでの来日が実現すれば、チームとして7回目の優勝が一層現実味を帯びる。



## BAHRAIN VICTORIOUS (TBV/BRN) | バーレーン・ヴィクトリアス

前回大会ではマテイ・モホリッチが3位。宇都宮ジャパンカップには5度目の出場となり、今度こそ表彰台の一番高いところへ。今シーズンのチーム状況は、総合力の高いレーニ・マルティネスとサンティアゴ・ブイトラゴが軸。そこへ、ジロ・デ・イタリア個人総合5位のベテラン、ダミアノ・カルーゾやアントニオ・ティベリ、昨年来日したペリョ・ビルバオらが続く。モホリッチが再来日するなら、当然昨年のリベンジを目指すことだろう。



## COFIDIS (COF/FRA) | コフィディス

メインスポンサーは、フランスの消費者金融会社。チーム名を冠して29年目となる、まさに“フランスの雄”。ツール・ド・フランスなどでもおなじみの赤と黄色のジャージが、今年も宇都宮を駆ける。ワンデーレースにめっぽう強いアレックス・アランブルが今季からチームに加わり、戦いの幅が広がった。エーススプリンターのブライアン・コカールやベテランのヨン・イサギレが脇を固め、チームとして安定した戦いぶりが光っている。



## INTERMARCHÉ - WANTY (IWA/BEL) | アンテルマルシェ・ワンティ

宇都宮ジャパンカップには2年ぶりの出場。前回出場した2023年大会では、ルイ・コスタ（現EFエデュケーション・イーザーポスト）が雨中の激戦を制し優勝。そのときにアシストとして貢献したゲオルク・ツィーママンは、今年ドイツのロード王者になるなどチームを引っ張る存在に。グランツールでの実績が豊富なルイス・メインチェスと並び、脚質的には宇都宮のコースにピッタリ。そして注目は、ビニヤム・ギルマイの来日なるかどうか。



## LIDL - TREK (LTK/USA) | リドル・トレック

宇都宮ジャパンカップを語るうえで、リドル・トレックの活躍は外すことができない。特筆すべきはクリテリウムでの活躍で、2015年と2016年に別府史之が2連覇。2018年にはジョン・デゲンコルプが、2019年からはエドワルト・トゥーンズが新型コロナ禍による中止をはさみながら3連覇。2024年はトムス・スクインシュが優勝。なんとチームとして6連勝中なのだ。ロードレースでもパウケ・モレマが2015年と2019年に優勝。チーム力は今大会ナンバーワンだ。



## TEAM JAYCO ALULA (JAY/AUS) | チーム・ジェイコ・アルウラー

自転車王国オーストラリアの雄。今季もシーズンインから好調で、1月の国内選手権ではルーク・プラップが個人TT、ルーク・ダーブリッジがロードレースでそれぞれ優勝。カデル・エヴァンス・グレートオーシャンロードレースではマウロ・シュミッドが制し、大きなインパクトを残した。グランツールでの活躍も光り、ジロ・デ・イタリアではプラップとクリス・ハーパーが、ツール・ド・フランスではベン・オコーナーがそれぞれステージ優勝。宇都宮ジャパンカップには6回目の出場。

## &lt;UCI ProTeam UCIプロチーム (4チーム) &gt;



## ISRAEL - PREMIER TECH (IPT/ISR) | イスラエル・プレミアテック

セカンドディヴィジョンにあたるUCIプロチーム登録だが、その戦力はワールドチームと遜色のない戦力を有する。2025年シーズン終了後に控えるディヴィジョン入れ替えではワールドチーム昇格が濃厚。常連となりつつある宇都宮ジャパンカップでは、勝利をつかんでワールドチーム入りの土産としたい。前回大会では、マイケル・ウッズが激闘の末に4位。再来日で晴れの優勝となるか。

SOLUTION TECH VINI FANTINI (TFT/ITA) |  
ソリューションテック・ヴィーニファンティーニ

2025年シーズン、日本のサイクルロードレースファンにとって最も身近な存在となった海外チームではないだろうか。何といても、我らが新城幸也が絶対的なリーダーとしてチームを引っ張っているのだ。主戦場であるヨーロッパだけでなく、日本で開催されるUCI国際レースでも数々の勝利をもたらしている。ツール・ド・熊野でのマーク・スチュワートの個人総合優勝や、The Road Race Tokyo Tamaでのロレンツォ・クアルトウッチの優勝はいずれも新城のアシストが基点。



## TEAM NOVO NORDISK (TNN/USA) | チーム ノボ ノルディスク

メインスポンサーのノボ ノルディスク社は、糖尿病領域をメインとする製薬会社。スポンサーするチーム ノボ ノルディスクの選手たちは、いずれも1型糖尿病を抱えながらサイクルロードレースと向き合っている。「糖尿病とともに生きる人々を元気づけ、治療に積極的に取り組み、それぞれの人生の目標に向けて生きていくことを応援する」とのチームミッションの通り、世界各地を転戦し、そこでの活躍や選手たちによる貢献活動によって理念を体現している。

TUDOR PRO CYCLING TEAM (TUD/SUI) |  
TUDORプロサイクリングチーム

前身は2018年創立のスイスサイクリングアカデミー。2023年にかつて個人タイムトライアルで4度の世界王者に輝き、パリ〜ルーベでも3度優勝したファビアン・カンチエラーラ氏と手を結び、TUDORプロサイクリングチームとして動き出した。年々チーム力を高め、2025年シーズンはジロ・デ・イタリアとツール・ド・フランス、2つのグランツール出場を実現させた。

## &lt;UCI Continental Team UCIコンチネンタルチーム (海外1チーム/国内7チーム) &gt;

**POGI TEAM GUSTOLJUBLANA (PGL/SLO) | ポギチーム・グスト・リュブリャナ**

スロベニアの首都・リュブリャナを拠点とするUCIコンチネンタルチーム。今年ツール・ド・フランス4度目の制覇を果たしたタデイ・ポガチャルも2018年に所属。同年には宇都宮ジャパンカップに参戦。クリテリウムではスプリント賞、ロードレースでは10位となった。

**AISAN RACING TEAM (AIS/JPN) | 愛三工業レーシングチーム**

UCIアジアツアーを主戦場に、国内外を転戦する日本の伝統チームのひとつ。全日本選手権やツアー・オブ・ジャパン、ツール・ド・ランカウイといった格式の高いレースでも数々の勝利を挙げている。

**KINAN RACING TEAM (KIN/JPN) | キナンレーシングチーム**

2018年にはUCIアジアツアーチームランキングで1位になるなど、長く国内外を主戦上に戦いを続ける。近年はオセアニアやヨーロッパにも進出。上位進出も増え、その名はワールドワイドになっている。並行して、チーム強化も進める。

**SHIMANO RACING (SMN/JPN) | シマノレーシング**

1973年発足。「オリンピック、UCIプロツアーなど海外の主要レースにおいて上位で活躍できるレベルまで速やかに育成すること」をフィロソフィーに掲げ、実際にワールドクラスで戦う日本人選手を幾人も育て上げている。

**TEAM UKYO (TUK/JPN) | TEAM UKYO**

「日本国籍のチームとして史上初めてツール・ド・フランスに出場し、表彰台に上ること」をチーム理念とする。国際色豊かなチームで、中心となる日本人ライダー5人に加え、イタリア、スペイン、エリトリアから有望株が所属している。

**UTSUNOMIYA BLITZEN (BLZ/JPN) | 宇都宮ブリッツェン**

2009年の発足以来、宇都宮を拠点に活動する地域密着型プロサイクルロードチームとして多くのファンを獲得。レース当日の沿道は、ブリッツェンカラーの赤に染まる。今年はこれまで以上に上位進出の期待がかかる。

**VC FUKUOKA (VCF/JPN) | VC FUKUOKA**

ここ数年の躍進が著しい九州の雄。チームのレベルアップに寄与しているのが2人のスペイン人ライダー。41歳のベンジャミ・プラデスは、長く日本のチームで活躍するオールラウンダー。その強さは健在で、今年にはツアー・オブ・ジャパン第7ステージで勝利を挙げた。

**VICTOIRE HIROSHIMA (VCH/JPN) | ヴィクトワール広島**

2015年に中四国初のプロチームとして誕生。地域密着を掲げ、他のプロスポーツとの共働にも力を入れている。チーム力強化も着実に進んでおり、2022年大会3位のベンジャミン・ダイボールや、今年春にJプロツアーで2勝を挙げたエリオット・シュルツを中心に宇都宮ジャパンカップでも活躍してくれるだろう。